

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 小野 真由美

小野真由美氏の論文「日本人高齢者の国際退職移住に関する文化人類学的研究—マレーシアの事例から」は、「ロングステイ」と呼ばれる日本人高齢者の退職後の国際移住について、マレーシアへの移住を事例に取り上げ、文化人類学の観点から解明することを目的としている。本論文のデータは、主に2006年8月から2009年1月にかけて小野氏がマレーシア（クアラルンプール、キャメロンハイランド、ペナン、およびコタキナバル）で行った長期にわたるフィールドワークによって得られたものである。

以下に、本論文の各章ごとの概要について述べる。第1章では、序論として、本論文の視点と分析枠組みの提示を行っている。ロングステイのような、移民でもなくツーリストでもない流動的な人々の暮らし方を捉えるために、ライフスタイル移住という概念に注目し、観光と移民の中間領域にある退職高齢者の国際移動をめぐる先行研究を検討している。第2章では、日本人高齢者の国際退職移住の背景として、少子高齢化が進む現代日本の社会的、経済的、文化的背景を概観し、送り出し側の状況が整理されている。また、1980年代末に日本政府主導で開始された高齢者の海外居住事業が、民間主導によるロングステイの商品化によって、日本人高齢者に普及していく過程を検討している。第3章では、受け入れ側のマレーシアにおける状況が分析されている。とくにマレーシア・マイ・セカンドホーム・プログラムと称する外国人長期居住の受け入れ制度が取り上げられている。これはマレーシア政府の設けた基準を満たす者のみが居住できる選別的移住制度であり、マレーシア政府は日本人退職者を主要な誘致対象とみなし、同制度の促進活動を活発に行っている様子が描かれている。

第4章から6章では、マレーシアでの実態調査に基づいたさまざまなケースが検討されている。第4章では、高原リゾートのキャメロンハイランドにおける事例を検討している。キャメロンハイランドに滞在する日本人高齢者の多くが、日本の気候が厳しい夏と冬に、避暑避寒を兼ねた余暇活動を目的に数日間から3カ月間程度観光ビザで滞在する「渡り鳥」型の移住者であると主張する。これに対し、第5章では、「定住」志向の退職移住者が集まるクアラルンプールの事例が取り上げられる。クアラルンプールでは、近年日本人高齢者の「セカンドホーム」が増加し、ネットワーク型のコミュニティが形成されている。そこではマレーシアで暮らすための知識や情報が共有され、新しいライフスタイルや生き方自体が創造されていくと論じられている。第6

章では、「ケア移住」型の事例として、健康な高齢者だけでなく、要介護者も含めた国際移動が伴っていることが取り上げられる。マレーシアではメディカルツーリズムの振興により外国人患者の誘致政策が展開されており、日本人向け高齢者介護施設や病院などでの調査から、要介護となった場合にもマレーシアで生活するための介護環境が整備されていく過程を検討している。

以上を踏まえて、第7章では、結論として、日本人高齢者のライフスタイル移住としての国際退職移住とは、異境で死を迎えることをも含む新たな生き方の創造のための運動であると結論づけている。

以上の構成を持つ本論文の意義は、第1に、日本人の高齢者の国際退職移住を主題として取り上げ、マレーシアでの長期間のフィールドワークに基づき、詳細な実証研究として提示したことである。ここで検討されたテーマは、超高齢化が進む今日の日本社会において、きわめて興味深く、タイムリーであり、重要である。

第2に、ロングステイに見られるような、ツーリストでも移民でもない人々の移動を取り上げることにより、移民研究と観光研究が交錯する領域に挑戦し、人の国際移動研究における新しい研究領域の開拓に寄与した点である。この点は、今日、人の国際移動のあり方が複雑化している中で意義深い。

第3に、ロングステイをライフスタイル移住と捉えることにより、今日のグローバルな消費社会の展開の中で、日本人高齢者がたんにロングステイを商品として消費するだけでなく、新しいライフスタイルを生産する者でもあることを明らかにしたことである。この点は、観光・移住にかかわる商品市場をめぐる生産と消費の関係を考えるうえで重要である。

審査においては、本論文での論述——先行研究のレビューの仕方、「参与観察」のあり方、欧米での研究成果との関連、移住コミュニティの捉え方、移住者の階層格差の問題、トランスナショナリズムにおける国家の位置づけなど——をめぐって疑問や批判的なコメントも提出された。しかし、本論文の持つ価値は十二分に高いものがあり、本論文は日本の超高齢社会化に伴う国際移動の文化人類学的研究に対し重要な貢献をしていると判断された。

したがって、本審査委員会は博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。